

中堅企業研究は何を論じようとしてきたのか

— 理論的基礎の再検討 —

企業家研究フォーラム

2020年度年次大会 (第18回)

2020年7月12日オンライン会場A 第2報告

林 侑輝 (Yuki Hayashi)

大阪公立大学 大学院経営学研究科

※資料ウェブ公開時点の所属

Contains:

1. 問題意識と先行研究レビュー
2. 中堅企業論の学説史的背景
3. 中堅企業論の再定位
4. 結論と今後の課題

1. 中堅企業研究のこれまで

問題意識と先行研究レビュー

▶ **中堅企業が言及される機会は増え、広がっている。**

- **経営人材養成**

- 「中堅企業研究会」（東京商工会議所, GEキャピタル, 関西生産性本部）

- **経済政策**

- 首相官邸「中堅企業等施策に関する関係府省会議」
- （グローバル・）ニッチトップ（細谷, 2017）
- 独・仏におけるミッテルシュタント（山口, 2012, 2014）
- 隠れたチャンピオン（Simon, 2009）
- **地域経済のリーダーとしての期待（松岡, 2019）**

▶ 中堅企業 (~論; ~研究) とは

- アカデミックには中村秀一郎『中堅企業論』が嚆矢。
- 中小企業とも大企業とも異なる、第3の企業セクター。
 - 伝統的な中小企業観に対するアンチテーゼ。
 - 1) 他社からの独立性; 2) 社会的資本調達が可能な規模; 3) 同族性の残存; 4) 独自市場の確保
(中村, 1964, 1990: 176-179)

▶ 中堅企業研究の現状

- 理論的な位置付けが不明瞭。
- 近年では、研究分野としての一貫性が失われている。

▶ 文献検索

- CiNii Articles

- 論題・要旨検索："中堅企業"
- 全体で1,000件あまりが該当。

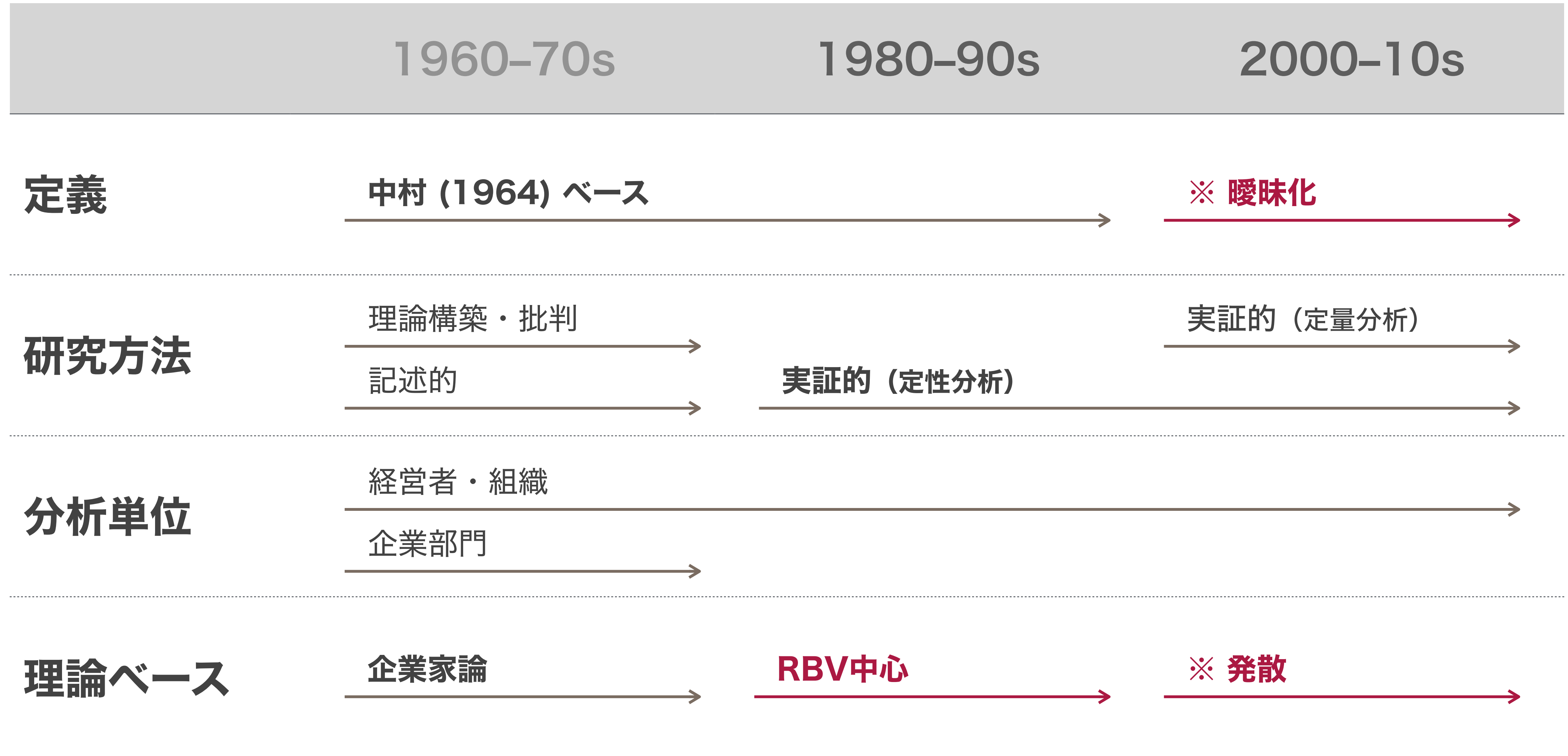
- 目視

- 学術書と論文（紀要含む）を選別。
- 160編の書誌情報を入手。
- 最終的な検討対象 → 配付資料

▶ 便宜上の分類

- 原理論的研究 (1960–70s)
- 経験的研究 (1980s ~)
- 特に、経営学に分類される研究
- 政策的研究

レビュー結果の概要



▶ 中小企業の成長(不)可能性

- **企業成長**に焦点。

(e.g., 金原, 1996; 清水, 2004)

- ただし、中小企業論との切り離しは不可能。

▶ 中小企業から中堅企業への成長メカニズム

- 発展段階説（ライフステージ；成長の「壁」）

(e.g., 清水, 1986; 土屋ほか, 2017)

- **ガバナンス・ライフサイクル**との関連

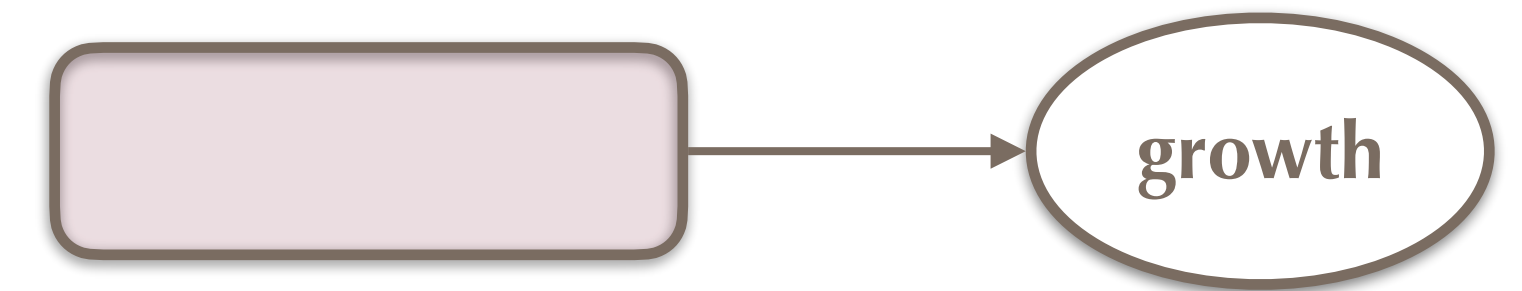
(e.g., 中村, 1964/1990; 岡室, 2001, 2006)

II. 中小企業の成長(不)可能性

中堅企業論の学説史的背景

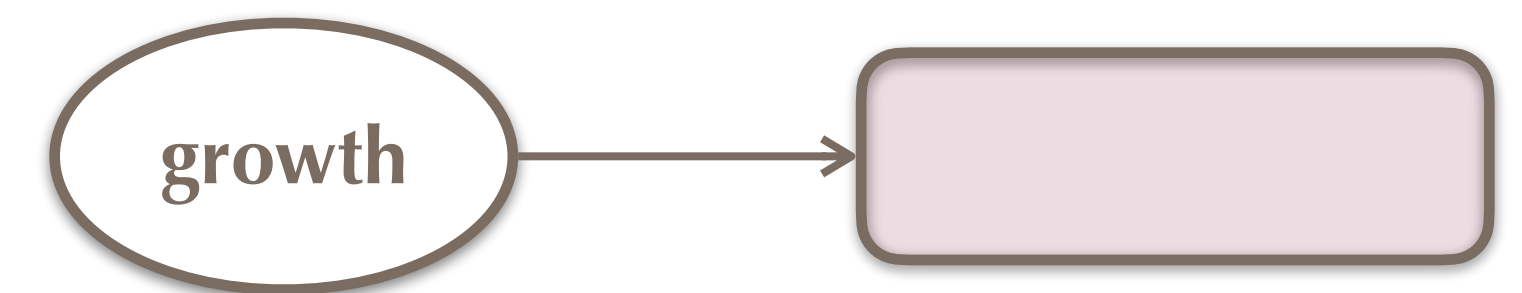
▶ 1. growth *as an outcome*

- 「何が、どんな / どの程度の、成長をもたらすか？」
- 成長は結果・被説明変数。
- オーナー経営者のアントレプレナーシップ



▶ 2. *the outcome of* growth

- 「成長によって、何が起こるか？」
- 成長は原因・説明変数。
- 組織ライフサイクル論



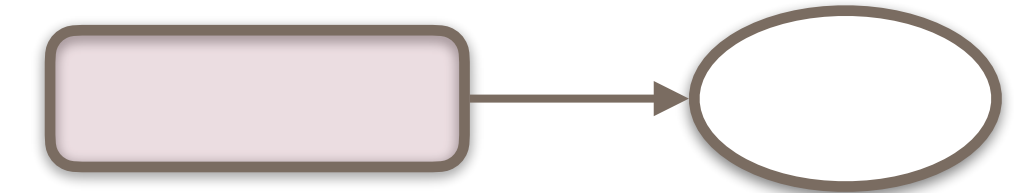
▶ 3. growth *as a process*

- 「成長とは、いかなるメカニズムで進行するプロセスか？」
(Penrose, 1995)



▶ 1. アントレプレナーシップ (Stevenson & Jarillo, 1990)

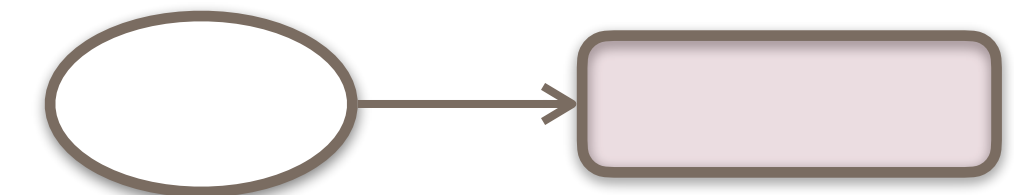
- What: 狭義SMEとはどこが異なるか？
- Why: なぜ発揮できるようになったか？ ← 「二重構造」の解消・緩和
- How: いかにして狭義SMEから変性したか？



▶ 2. 組織ライフサイクル

(Greiner, 1972; Churchill & Lewis, 1983; Scott & Bruce, 1987)

- 狭義SMEから中堅企業への移行によって生じる課題は何か？
- その課題をいかに克服すべきか？

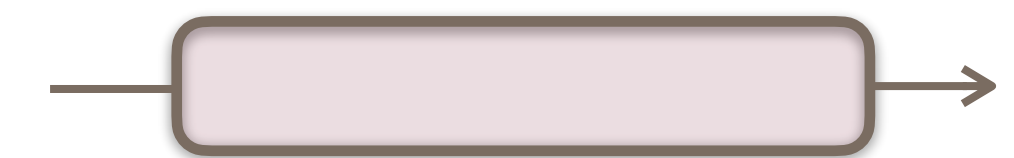


▶ 3. 成長プロセス

- 1と2の**循環的因果を駆動**させるメカニズム：

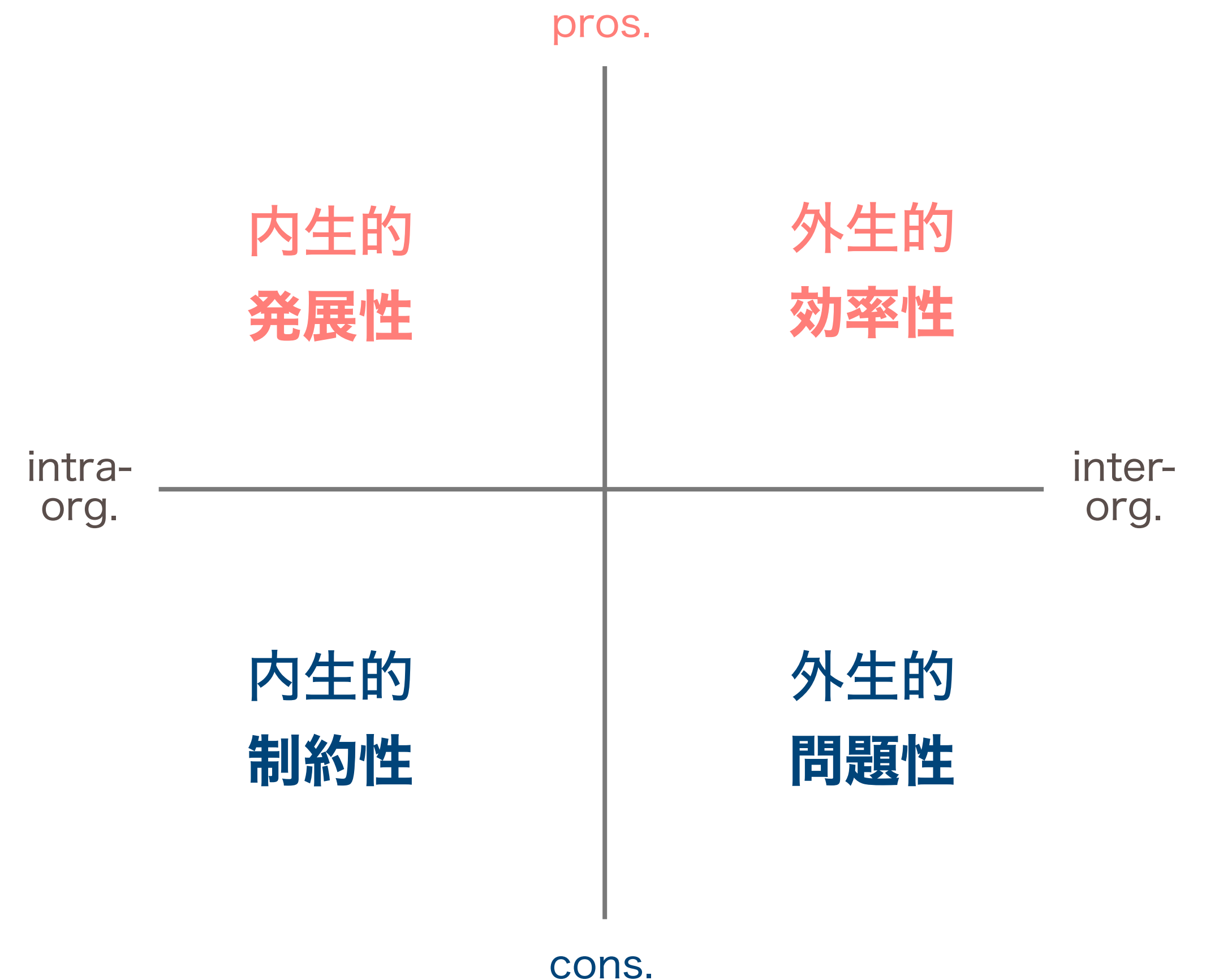
(Zahra & Filatotchev, 2004; Filatotchev et al., 2006; Zahra et al., 2009)

- 資源獲得・学習
- **コーポレートガバナンス機制の変容**



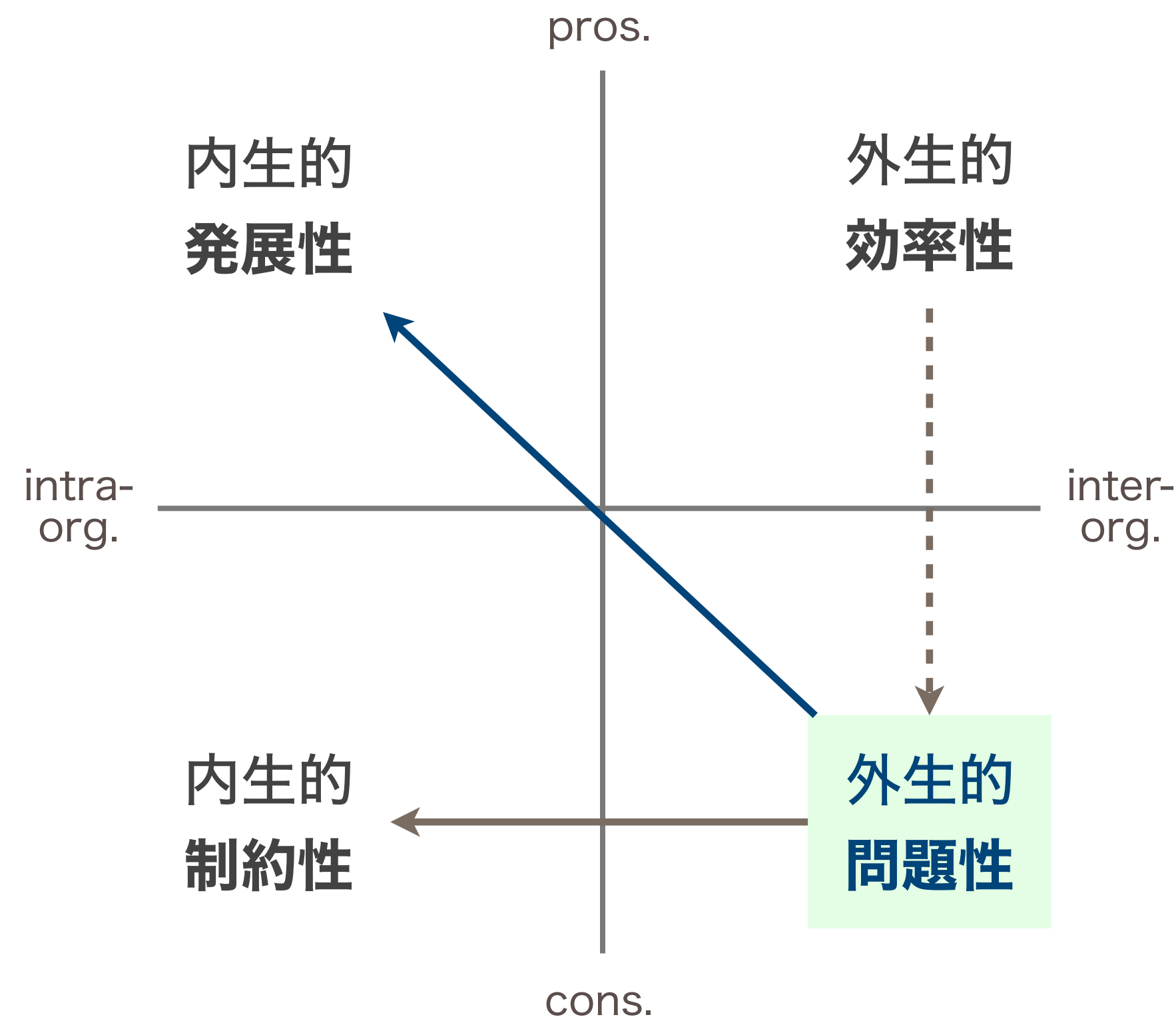
▶ 中小企業論を構成する4つの要素

- 日本では、中小企業論の本質論・認識論が複雑に展開。
- 林・山田 (2018) の枠組み
 - 縦軸：積極的側面 / 消極的側面
 - 横軸：企業内部 / 組織間関

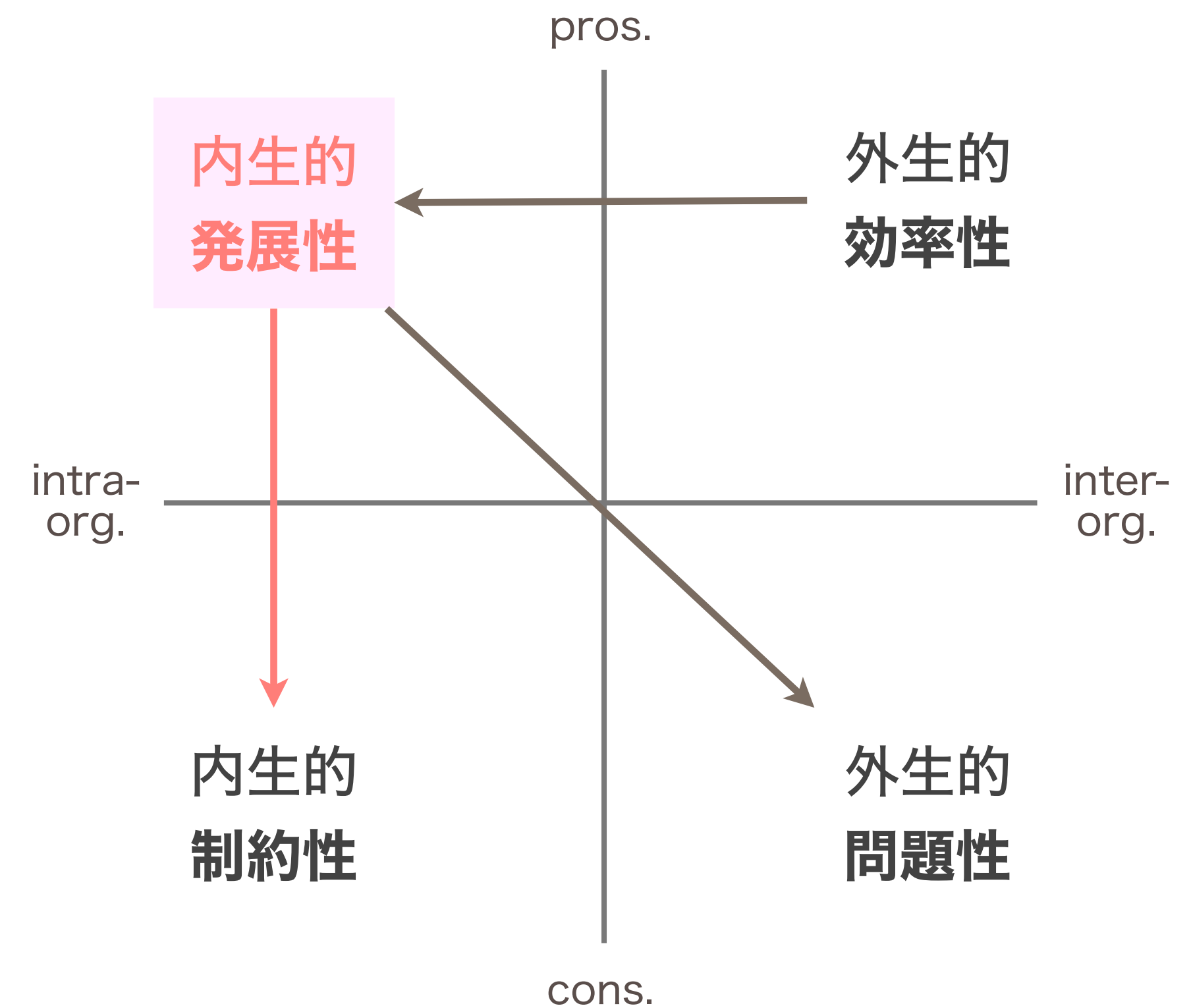


SMEの成長(不)可能性 // 2つの視座

▶ a) 問題論 / 消極論 / 他責論



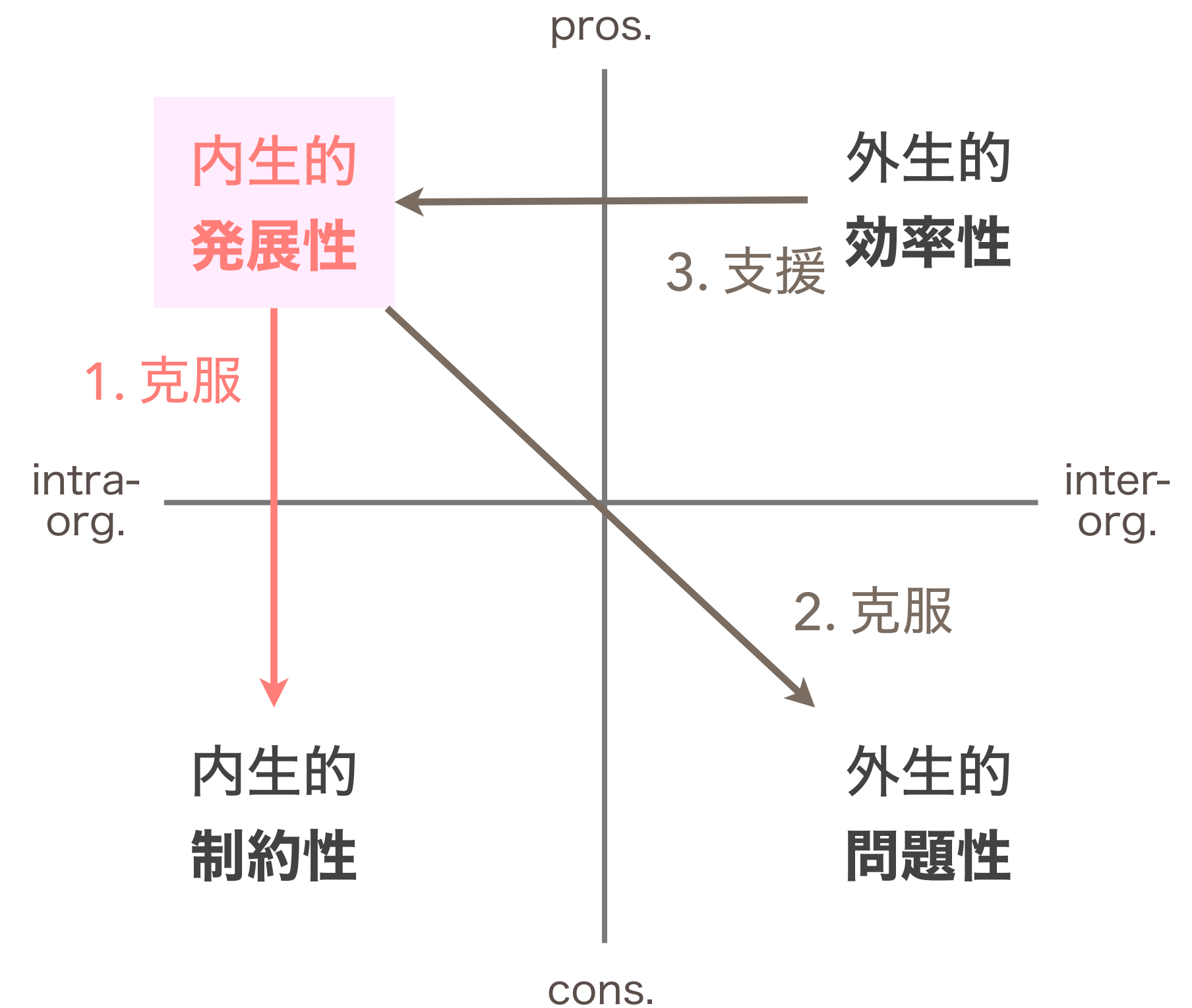
▶ b) 発展論 / 積極論 / 自責論



SMEの成長(不)可能性 // 2つの視座 (b)

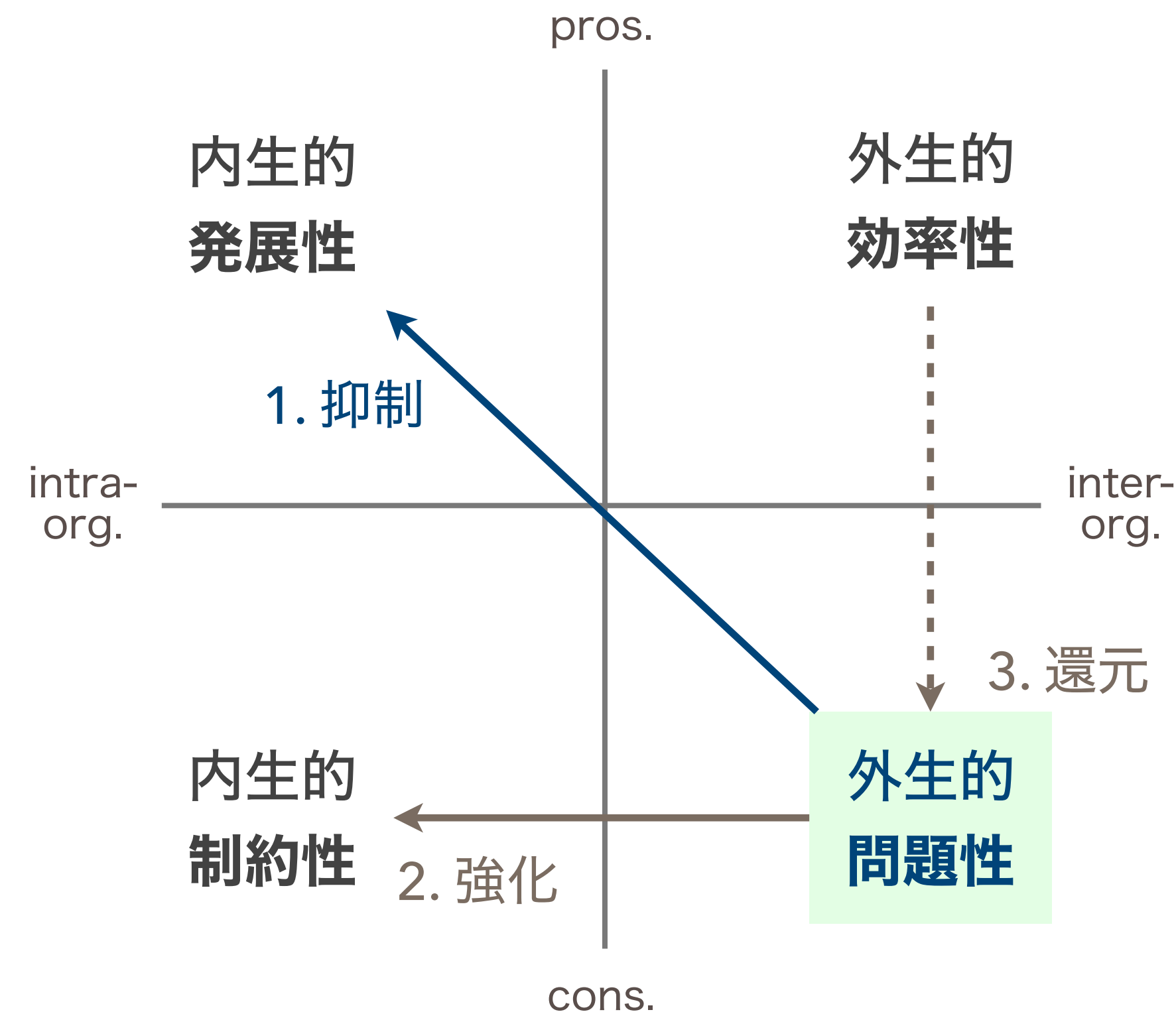
▶ b) 発展論の焦点

1. 制約性は、発展性により克服されうる。
2. 問題性は、発展性により対抗しうる。
3. 効率性は、発展性を支援しうる。



SMEの成長(不)可能性 // 2つの視座 (a)

▶ a) 問題論の焦点

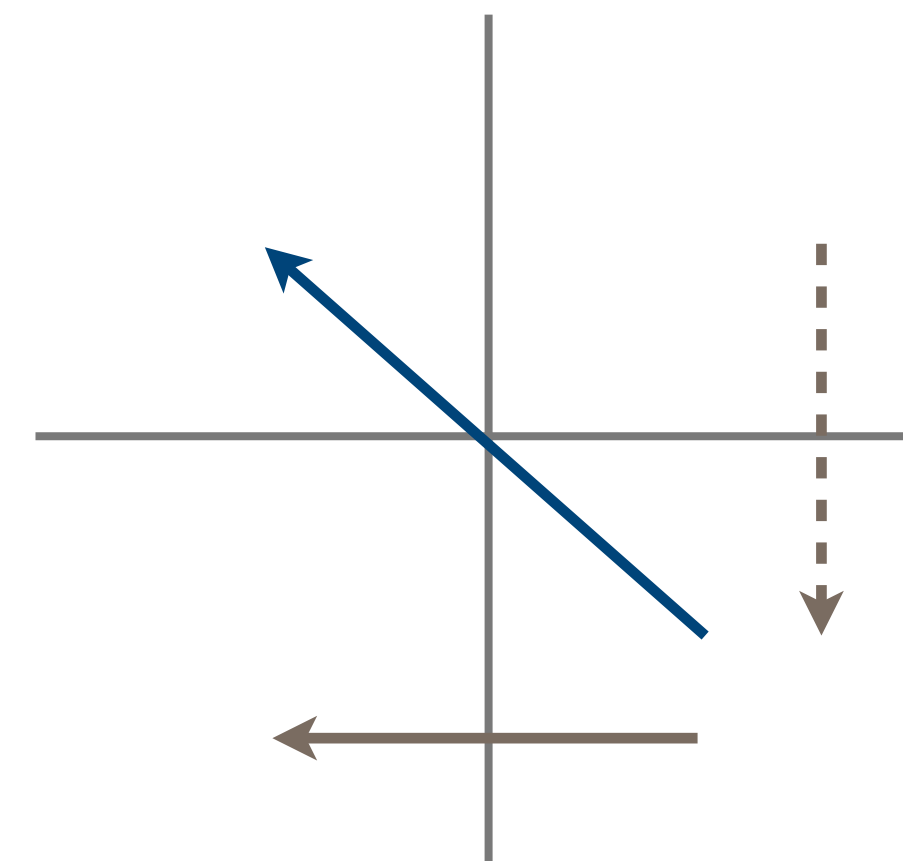


1. 発展性は、問題性に抑制されてしまう。
2. 制約性は、問題性に強化されてしまう。
3. 効率性は、問題性に還元されてしまう。

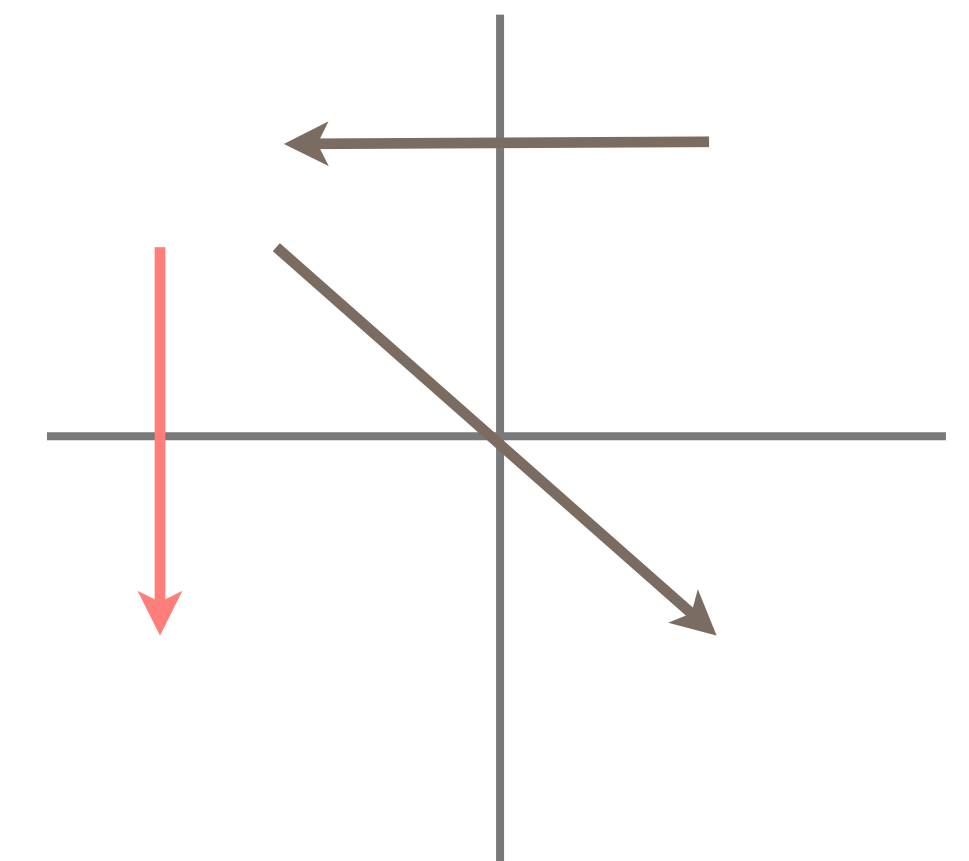
▶ 論理の非対称性

- 2つの視座は「**対立的**」**だが**、力点の置き方は**非対称**。
 - かつての発展論は過度に楽観的だったが、批判を受けて実質的に見直された。
(中山, 1965; 未岡, 1965; 酒井, 1966; 糸園, 1968; 松井, 1976)
- それぞれの理念は同時追求できる。
 - 政策・運動を通じた外生的要因への働きかけ
 - 企業自身による**内生的要因への働きかけ**

問題論



発展論



III. 企業成長とガバナンス機制

中堅企業論の再定位

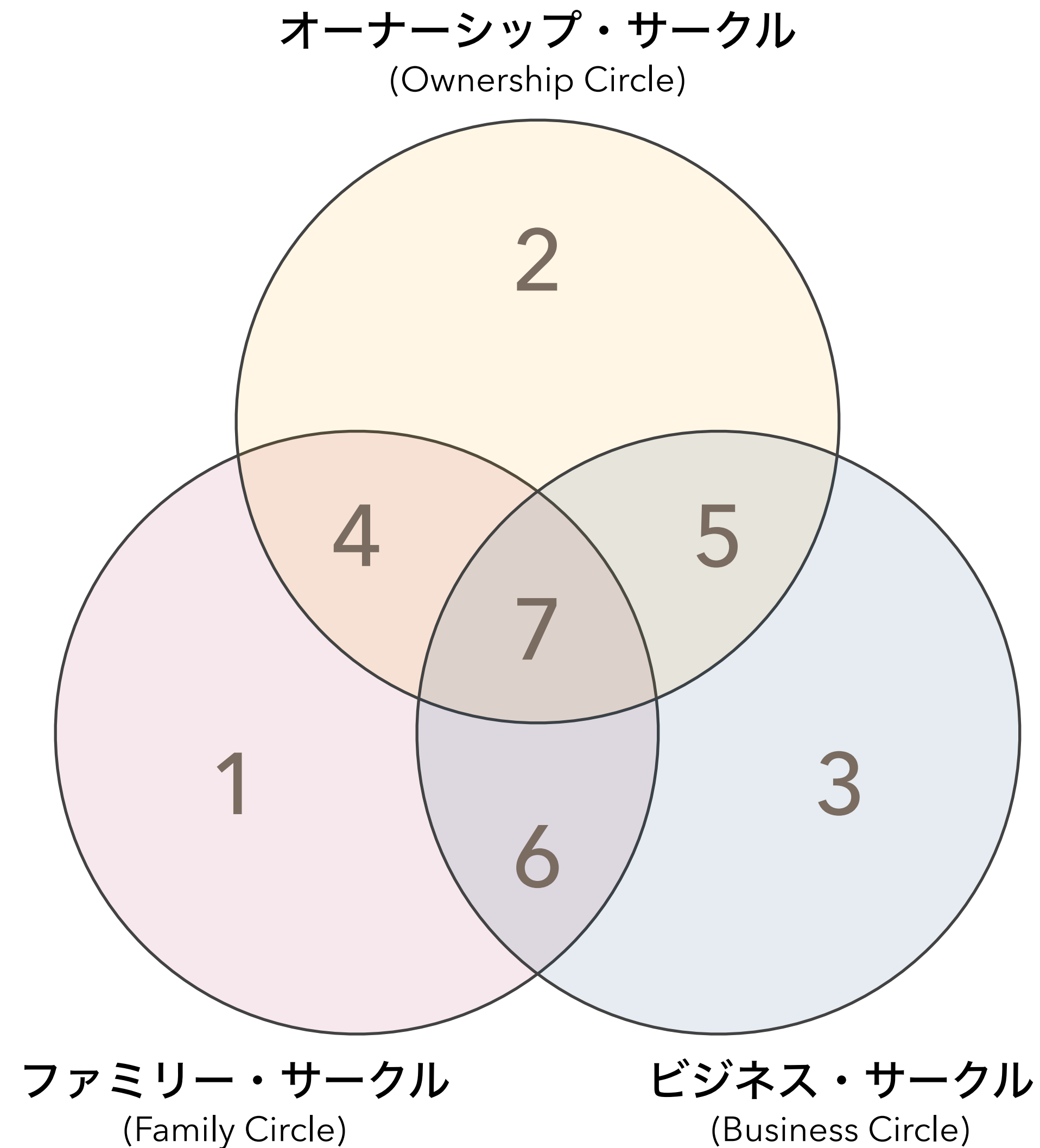
▶ 中堅企業の定義 再掲（中村, 1990: 176-179）

- 1) 他社からの**独立性**; 2) **社会的資本調達**が可能な規模;
- 3) **同族性の残存**; 4) 独自市場の確保
- **広義のコーポレートガバナンス**に関する定義を含んでいる。

▶ ガバナンス機制の変化を捉える枠組み

- 所有と経営の分離 / 一致
- ファミリービジネス論由来のフレームワーク

中堅企業のガバナンス // スリーサークル・モデル



部分集合別の役割

1. **Family Members**
2. Non-family Non-manager **Owners**
3. Non-family **Members**
4. **Family Owners**
5. Non-family **Owner-Employees**
6. **Family Employees**
7. **Family Owner-Employees**

中堅企業のガバナンス // 関連概念との比較

	所有と経営の 分離	ファミリーの 関与	所有政策	経営体制
(狭義の)中小企業	想定せず	想定	近接性 (proximity) の原理に従う (Ingley et al., 2017)	
中堅企業 (中村, 1964)	部分的な 進行を想定	想定	二部上場 金融市場から資金調達可	企業家的創業者経営 「社外重役制」の導入を含む
ベンチャー企業 (清成ほか, 1971)	部分的な 進行を想定	問わない	VCによる出資	テクノストラクチャ による経営
境界企業 ※ (Zahra & Filatotchev, 2004)	部分的な 進行を想定	影響力の 低下を想定	IPO前後 アカウントビリティ向上; 資金調達チャネル拡充	専門的経営への移行期 社外役員を導入を含む

※ 境界企業 (threshold firm) : 企業家的経営から専門的経営への移行期に直面している企業
(Zahra & Filatotchev, 2004; Zahra, Filatotchev, & Wright, 2009)

中堅企業のガバナンス // 多面性と可変性

▶ ガバナンス・ライフサイクルの枠組み

		アカウントビリティ (ガバナンスの目的)	
		限定的 (富の創出)	高度 (富の保護)
資源ベース	局所的 (欠乏)	1. 創業 ~ IPO ガバナンス機能 ・ 監視：低 ・ 資源：高 ・ 戦略：高	2. IPO ~ 成熟 ガバナンス機能 ・ 監視：中 ・ 資源：中 ・ 戦略：高
	広範 (充実)	4. 成熟 ~ 刷新 ガバナンス機能 ・ 監視：低 ・ 資源：中 ・ 戦略：中	3. 成熟 ~ 衰退 ガバナンス機能 ・ 監視：高 ・ 資源：低 ・ 戦略：低

境界企業

中堅企業

▶ 広義SMEのガバナンス・ライフサイクル論として

- 「中堅企業論」という固有分野としての存続は困難。
- ただし、**企業家論 & 統治論の交差領域**に接合・貢献が可能。
(cf., Gabrielson, 2017)

IV. 中堅企業研究の現代的意義

結論と今後の課題

▶ 源流 (= 中小企業論) からの影響

- 内生的発展性を強調しつつも、前提としての外生的問題性を明示的に認識する。

▶ 前提を変えようとする視点

- 内部要因の緊張関係（発展性 / 制約性）に働きかける際、レバレッジとなりうる意思決定に注意を促している。
 - 経営体制の変容：TMTの開放性の向上
 - 所有政策の変容：資源調達・動員チャネルの拡充 (cf., Berger & Udel, 1998)

▶ 日本の中小企業論 & 国際的な企業家論の架橋

- 前提の相違に由来する、微妙だが深刻なギャップがある。
- **ガバナンス・ライフサイクル論**の側面が**橋渡し**に貢献する。
 - 多面性：監視装置であると同時に、戦略的資源としての機能もある。
 - 可変性：ガバナンスは与件ではなく、戦略的に変化させうる。
- 初期の定義に含まれていたが、近年では盲点に。
 - 土屋ほか (2017) は、ダイナミック・ケイパビリティに基づく革新的中小企業の成長戦略に注目。
 - だが、そもそもDC論は”企業家”論でもあり統治論でもある (Teece, 2009) 。

▶ SME研究における企業観・統治観のアップデート

- “オーナーの所有物” → “統治された資源・契約の束”
 - 第三者承継（脱同族）
 - オーナー経営者の出口戦略
- 外生的効率性の源泉は企業間関係に限定されない。
 - SME経営陣と外部経営人材プールとの境界連結
 - SBO（≡ 近接性）からEOへの「変性（denaturation）」
(Carland et al., 1984; Stewart et al., 1999; Ingley et al., 2017)
- 多面性・可変性を反映した政策メニューが提供されているか？

参考文献 (1)

- Berger, A. N. & Udell, G. F. (1998).** The Economics of Small Business Finance: The Roles of Private Equity and Debt Markets in the Financial Growth Cycle. *Journal of Banking & Finance*, 22(6), 613–673.
- Carland, J. W., Hoy, F., Boulton, W. R., & Carland, J. A. C. (1984).** Differentiating Entrepreneurs From Small Business Owners: A Conceptualization. *Academy of Management Review*, 9(2), 354–359.
- Churchill, N. C. & Lewis, V. L. (1983).** The Five Stages of Small Business Growth. *Harvard Business Review*, 61(3), 30–50.
- Filatotchev, I., Toms, S., & Wright, M. (2006).** The Firms Strategic Dynamics and Corporate Governance Life-cycle. *International Journal of Managerial Finance*, 2(4), 256–279.
- Gabrielsson, J. (2017).** Corporate Governance and Entrepreneurship: Current States and Future Directions. In Gabrielsson, J. (Ed.). *Handbook of Research on Corporate Governance and Entrepreneurship* (Chapter 1, pp.3–26). Cheltenham, UK: Edward Elgar.
- Greiner, L. E. (1972).** Evolution and Revolution as Organizations Grow. *Harvard Business Review*. 50(4), 37–46.
- Ingle, C., Khlif, W., & Karoui, L. (2017).** SME Growth Trajectories, Transitions and Board Role Portfolios: A Critical Review and Integrative Model. *International Small Business Journal: Researching Entrepreneurship*, 35(6), 729–750.
- McKelvie, A. & Wiklund, J. (2010).** Advancing Firm Growth Research: A Focus on Growth Mode Instead of Growth Rate. *Entrepreneurship Theory and Practice*, 34(2), 261–288.
- Penrose, E. T. (1995).** *The Theory of the Growth of the Firm* (3rd Ed.). Oxford, UK: Oxford University Press. 邦訳, エディス・ペンローズ (2010) 『企業成長の理論 [第3版]』日高千景 訳. ダイヤモンド社.
- Scott, M. & Bruce, R. (1987).** Five Stages of Growth in Small Business. *Long Range Planning*, 20(3), 45–52.
- Simon, H. (2009).** *Hidden Champions of the 21st Century: Success Strategies of Unknown World Market Leaders*. New York: Springer-Verlag. 邦訳, ハーマン・サイモン (2015) 『〈新装版〉グローバルビジネスの隠れたチャンピオン企業：あの中堅企業はなぜ成功しているのか』上田隆穂 監訳, 渡部典子 訳. 中央経済社.

参考文献 (2)

- Stevenson, H. H. & Jarillo, J. C. (1990).** A Paradigm of Entrepreneurship: Entrepreneurial Management. *Strategic Management Journal*, 11, 17–27.
- Stewart, Jr., W. H., Watson, W. E., Carland, J. C., & Carland, J. W. (1999).** A Proclivity for Entrepreneurship: A Comparison of Entrepreneurs, Small Business Owners, and Corporate Managers. *Journal of Business Venturing*, 14(2), 189–214.
- Tagiuri, R. & Davis, J. (1996).** Bivalent Attributes of the Family Firm. *Family Business Review*, 9(2), 199–208.
- Teece, D. J. (2009).** *Dynamic Capabilities and Strategic Management: Organizing for Innovation and Growth*. Oxford, UK: Oxford University Press. 邦訳, デビッド・J・ティース (2013) 『ダイナミック・ケイパビリティ戦略』谷口和弘, 蜂巢旭, 川西章弘, ステラ・S・チェン 訳. ダイヤモンド社.
- Zahra, S. A. & Filatotchev, I. (2004).** Governance of The Entrepreneurial Threshold Firm: A Knowledge-based Perspective. *Journal of Management Studies*, 41(5), 885–897.
- , ———, & **Wright, M. (2009).** How Do Threshold Firms Sustain Corporate Entrepreneurship?: The Role of Boards and Absorptive Capacity. *Journal of Business Venturing*, 24(3), 248–260.
- 糸園辰雄 (1968)** 「「中堅企業」について」『産業経済研究』4, 19–31.
- 岡室博之 (2001)** 「中堅企業の成長率・収益性とガバナンス構造」『一橋論叢』125(6), 615–632.
- (2006) 「高度成長期の新規上場企業のコーポレート・ガバナンスと企業家の役割」『経済研究』57(4), 303–313.
- 川上義明 (2005)** 「日本における中小企業研究の新しい視点(Ⅲ): 複合的視点の提示」『福岡大学商学論叢』49(3–4), 343–360.
- 清成忠男, 中村秀一郎, 平尾光司 (1971)** 『ベンチャー・ビジネス: 頭脳を売る小さな大企業』日本経済新聞社.
- 金原達夫 (1996)** 『成長企業の技術開発分析: 中堅・中小企業の能力形成』文真堂.
- 佐竹隆幸 (2008)** 『中小企業存立論: 経営の課題と政策の行方』ミネルヴァ書房.
- 佐伯靖雄 (2008)** 「下請制及びサプライヤー・システム研究の系譜と課題」『立命館経営学』47(4), 325–350.
- 酒井安隆 (1966)** 「「転型期」と「企業系列」の変貌: 主としていわゆる「中堅企業論」との関連において」『経済学雑誌』55(1), 1–46.

参考文献 (3)

- 清水馨 (2002) 「中堅企業研究の変遷」『千葉大学経済研究』17(3), 443-471.
- (2004) 「中堅企業の成長要因：中堅企業研究のサーベイから」『千葉大学経済研究』19(1), 95-124.
- 清水龍瑩 (1986) 「中堅・中小企業の成長プロセスと成長要因」『三田商学研究』28, 124-142.
- 未岡俊二 (1965) 「「中堅企業論」の批判と評価」『東京経大会誌』47, 253-273.
- 瀧澤菊太郎 (1996) 「中小企業とは何か」小林靖雄, 瀧澤菊太郎 編『中小企業とは何か』第1章 (pp.1-34). 有斐閣.
- 土屋勉男, 金山権, 原田節雄, 高橋義郎 (2017) 『事例でみる中堅企業の成長戦略：ダイナミック・ケイパビリティで突破する「成長の壁」』同文館出版.
- 中村秀一郎 (1964) 『中堅企業論』東洋経済新報社.
- (1990) 『新 中堅企業論』東洋経済新報社.
- 中山金治 (1965) 「「中規模企業肥大化」現象の評価：いわゆる「中堅企業論」をめぐって」『商工金融』14(12), 1-10.
- 林侑輝 (2017) 「企業成長プロセスにおけるガバナンス・メカニズムの戦略的役割に関する事例研究」『経営研究』68(3), 107-123.
- , 山田仁一郎 (2018) 「中小企業のガバナンス・シフト：可能性追求のための対話に向けて」『商工金融』68(9), 44-63.
- (forthcoming) 「自然解体へと向かう中堅企業研究：経営学の観点からの再検討」『経済理論』401.
- 細谷祐二 (2017) 『地域の力を引き出す企業：グローバル・ニッチトップ企業が示す未来』筑摩書房.
- 松井敏彦 (1976) 「自動車工業における系列化の進展と「中堅企業」：「中堅企業論」批判」『立命館経営学』14(6), 75-106.
- 松岡真宏 (2019) 『持たざる経営の虚実：日本企業の存亡を分ける正しい外部化・内部化とは？』日本経済新聞出版社.
- 山口隆之 (2012) 「中堅企業の現状と政策期待：フランス中堅企業論の展開」『商学論究』60(1), 127-144.
- (2014) 「模範としてのミッテルシュタント：近年フランスにおける中堅企業論を中心として」『商学論究』61(4), 205-233.
- 渡辺幸男 (1997) 『日本機械工業の社会的分業構造：階層構造・産業集積からの下請制把握』有斐閣.
- 謝辞：本報告は、日本ベンチャー学会「再訪・中堅企業：成長の節目を乗り越えようとする企業の調査研究プロジェクト」に基づく成果の一部です。